

加賀美竹風

新年のクラス会兼ね初ゴルフ
八重桜散りたる後も花むしろ
竹の音や箕輪の里につつじ咲き
山女喰いつい飲みすぎの夏の夜
木枯しやまたも友逝くさびしさよ

.....

鬼城先生と我が家のご縁について少し触れて見たいと思います。

我が家は群馬県高崎市から十三キロの田舎町にありますが、私の祖父が鬼城先生の直弟子で俳号は狸村を名乗っておりました。自分の句集も出していたので、趣味にしてもかなり凝っていたのだと思われる。そんなことで我が家にも額に入っている先生の俳画や掛け軸が数点御座います。常時座敷に飾ってあるのは、縦一尺、横五尺位の俳画で、六人の人物（僧侶と武士）が座しており、句は、「秋の灯を 囲みて何を する宿ぞ 昭和六年春 鬼城并題」とあります。更に鬼城草庵の前主・村上信氏は、私の元の職場である群馬銀行の大先輩で御座います。そしてこの村上信氏の養子となられたのが、鬼城先生の孫に当たる我が村上谿馨先生というわけです。

先生が一日でも早くお元氣になられますことを心よりお祈り申し上げます次第であります。